



医療教育開発センター ニュースレター

NEWS LETTER

Vol.19

Contents

- 1 巻頭言
- 2 副センター長の紹介
- 3 平成29年度 活動予定

1 巻頭言

医療教育の充実に向けて



医療教育開発センター長 赤池 雅史

医療教育開発センターの役割は、医療系全領域にわたる教育・研究・診療組織がひとつのキャンパスに集約している徳島大学の強みを基盤として、各組織の専門性を活かしながら教育連携を行うことで、高度専門医療人や優れた生命科学研究者を育成することです。このような目標のもと、当センターは各組織を繋ぐ「ハブ&ニッチ」的存在として、高大連携～卒前～卒後・生涯教育を「縦軸」、専門職連携教育を「横軸」に、組織横断的大学院教育、シミュレーション教育、医療コミュニケーション教育等を推進してきました。今年度は大学院教育の支援として、共通科目e-learning、英語プログラム、Tokushima Bioscience Retreat、教育クラスター等に引き続き取り組み、全学的発展を含めて、その検証と継続的改善を目指

します。専門職連携教育については、1年次「チーム医療入門」に続いて、症例シナリオに基づく学部連携PBLチュートリアルと多職種カンファレンスによるチーム医療臨床実習を実施し、学年積み上げ式専門職連携教育へと発展させたいと思います。シミュレーション教育については、年々増加する利用ニーズに対応できるようにスキルスラボの施設整備を進めるとともに、メディカルトレーニングラボ(石井キャンパス)やクリニカルアナトミーラボ(徳島大学病院)と連携して低侵襲手術トレーニングプログラムの充実に取り組みます。また、模擬患者参加による医療コミュニケーション教育とともに、シミュレーション教育にデブリーフィング等のアクティブラーニング手法を取り入れ、その質の向上に努めたいと思います。今年度も皆様のご指導ならびにご支援を引き続きよろしくお願い致します。

2 副センター長の紹介



大学院医歯薬学研究所医科学部門 准教授 吾妻 雅彦

蔵本地区各学部の協力により、積み重ねられてきた多職種連携教育が、本年度は、より高学年で実施することが決定しました。関係部署と意見交換を密に行い、有意義な実習にすべく努めたいと考えています。



大学院医歯薬学研究所薬科学部門 教授 土屋 浩一郎

医療教育開発センターが各学部・教育部と協力して医療人を養成することは、徳島大学の特色ある医療人養成の要として重要な意味を持つと考えています。センター長の下、皆様と協力して医療教育関連事業に取り組んでいく所存です。



教養教育院 医療基盤教育分野 教授 岩田 貴

学内外、県内外の卒前・卒後の医療系実習のお手伝いをさせていただいて、少しずつ活動範囲を広げております。

今後は最新のVRを駆使した低侵襲手術トレーニングの提供など、新たな試みも進めたいと思います。



大学院医歯薬学研究所栄養科学部門 教授 阪上 浩

医科栄養学科は、高度な技能・知識を有する管理栄養士を養成するために大学院教育の改組に現在取り組んでおります。栄養学の専門性をいかしつつ、多職種連携教育やシミュレーション教育などの教育連携に尽力していきます。



大学院医歯薬学研究所口腔科学部門 教授 石丸 直澄

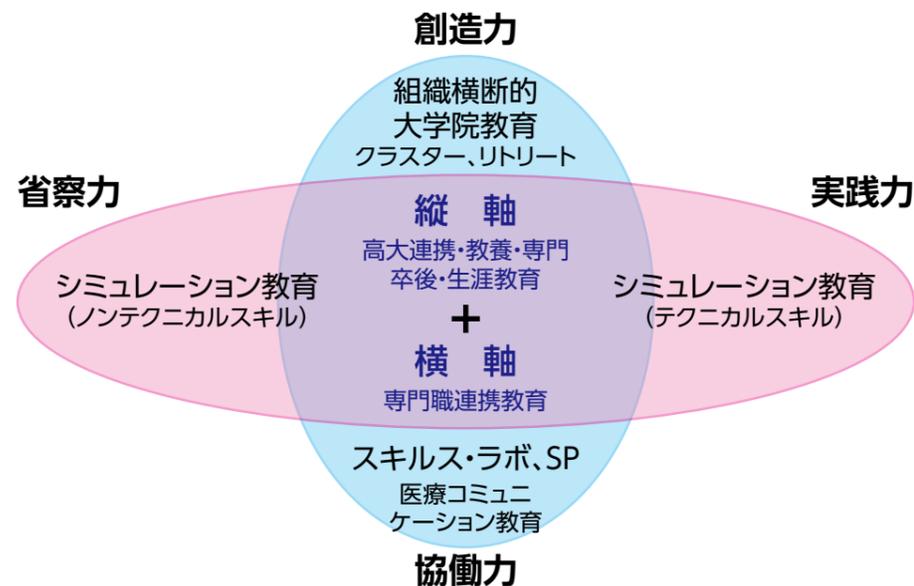
学生・大学院生は大学の宝であり、教育を蔑ろにする大学に将来はないと考えます。時代のニーズに対応した医療教育システムを構築しながら、「心ある医療人」を育むことが我々教員に長らく課せられた最大の責務であると感じます。



医歯薬学研究所保健科学部門 教授 谷岡 哲也

保健科学教育部では国際的な教育・研究指導に取り組んでいます。四国で唯一、看護学、放射線科学、検査技術科学の学部から博士課程まで一貫した教育環境を活かし、実践力のある医療に貢献する医療人、教育者、研究者を育成していきたいと思っています。

3 平成29年度 活動予定 *各実績は次のページ



医療系学部における組織・領域横断的大学院教育支援

2017 Tokushima Bioscience Retreat

日程:平成29年9月28日(木)~30日(土)
場所:リゾートホテル オリビアン小豆島
特別講師:高柴 正悟 先生(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野 教授)

演題:「健康寿命を延ばすための医学、歯学、および薬学による総合的な研究アプローチ」



今年度で13回目になります。昨年度より全学的取り組みとして、蔵本および、第三島キャンパスより参加者を募っています。presentation, discussion, recreation は英語で行っています。



教育クラスター活動支援

- ①コアセミナー開催(平成28年度 51回開催)
- ②各クラスターによるミニリトリート開催(平成28年度 参加者数 大学院生/学部生124名、教員134名)

大学院共通科目e-Learning(MLS)運営支援

e-Learning化されている共通カリキュラムのコンテンツ撮影、編集、配信(合計8科目)

臨床技能学習施設(スキルス・ラボ) Clinical Skills laboratory (CSL)

当センターのスキルス・ラボは蔵本キャンパスのほぼ中央に位置し、専門の手技に対応できるシミュレーション教育機材(Simulator)が数多く配置されています。基本的な~専門的な医療技術・技能(クリニカルスキル)とともに、状況把握やコミュニケーション、チームワークといったノンテクニカルスキルを学ぶ場として学内医療系各学部生だけでなく、徳島大学病院や関連医療機関すべての医療職に携わる人々に利用されています。

中心静脈カテーテル挿入(CV)個別講習会(シミュレーション教育)

超音波ガイドを使用した中心静脈カテーテル挿入方法、およびその介助方法を修得する講習会です。毎月2回、定員2~3名で開催されており、少人数で効果的に学ぶことができます。

岩田貴教授の指導により、ビデオフィードバックを用いて、自分の手技を客観的に見直すことができます。徳島大学病院研修医をはじめ、徳島県下の病院から多くの研修医・医師が学んでいます。



今年度も学外で研修している研修医の皆さんが、鎖骨下静脈穿刺・胸腔穿刺・腰椎穿刺などの基本的技能実習を行います。



中心静脈カテーテル挿入(CV)



個別講習会(シミュレーション教育)

医療系学部における専門職連携教育支援

＜専門職連携教育の目標＞

- ・医療専門教育を受けているすべての学生が、より安全で、より質の高い医療を提供するためにともに学び、お互いから学びあう。

IPL: Interprofessional learning
複数の領域の専門職の相互交流

IPE: Interprofessional education/training
複数の領域の専門職がともに学ぶ、お互いから学ぶ

初年次

臨床実習 → 卒後 チーム医療の実践へ

①SIH道場 第11回チーム医療入門蔵本地区1年生合同WS

平成29年9月29日(金) 13:00-17:00

概要

初年次教養教育「医療基盤教育」
異なる学科の学生が相互交流し異なる立場や様々な観点から意見交換を行い、プロダクトの作成、プレゼンテーションを行う。



今年度のテーマは「国際医療」です。
講師:内藤 毅 先生(徳島大学国際センター 特任教授)

②第5回学部連携PBLチュートリアル

平成29年11月22日(水) 9:00-12:00
29日(水) 9:00-11:00

概要

患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案する。



昨年度までのトライアル実施を正課授業に発展させるべく、参加可能な学部・学科の学生で実施し、次年度へ向けにさらに検討を重ねます。

③第4回チーム医療臨床実習

平成29年7月6日(木) 医学科・薬学部
20日(木) 医学科・医科栄養学科

概要

臨床実習の現場で、複数の学科の学生がともに、受け持ち入院患者のケア、治療について討議する。



昨年度は徳島大学病院 呼吸器・膠原病内科の協力のもと、実習中の医学科学生と薬学部学生で実施することができました。今後さらに協力を広げ、さまざまな学科学生の参加について検討を進める予定です。

関連科目:教養教育院 汎用的技能教育科目群・コミュニケーション「乳幼児との交流から学ぶ」(1年生選択授業)

模擬患者(SP)参加型教育の発展支援

～共感と傾聴を重視した「医療コミュニケーション教育」～

医療教育では模擬患者さんの協力を得てコミュニケーション実習や試験が行われています。医療教育開発センターでは、学部・学科のニーズに合わせて模擬患者さんの育成や派遣をコーディネートしています。

模擬患者参加型実習では学生が一般市民である模擬患者の想い・感情を意識しながら、共感と傾聴を重視したコミュニケーション教育を目指しています。



昨年に引き続き、学生・教員・模擬患者が双方向に意見交換することを推奨し、教員との協議や模擬患者さんの研修を重ねていきます。



FDの開催

著名な先生を招聘した講演会や研修会、また実習や講習会などの事前準備としての勉強会など、各種FDを企画しています。

アクティブ・ラーニングを推進します。

◆SIH道場 第11回チーム医療入門蔵本地区1年生合同WS

チューター事前打ち合わせ会
とき:平成29年9月

医療安全教育に取り組みます。

◆第5回医療教育開発センター特別講演会

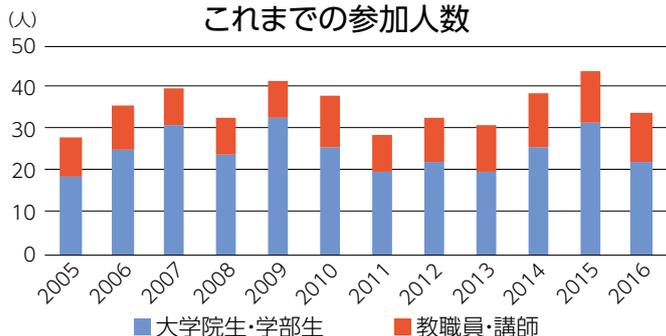
とき:平成29年9月13日(水) 18:00-19:30
場所:日亜メディカルホール(徳島大学病院西病棟11階)
講師:松村 由美 先生(京都大学医学部附属病院医療安全管理室室長/病院教授)
演題:患者安全の教育システム一学部教育から職員研修まで一



◆ グラフでみる医療教育開発センターの活動

Tokushima Bioscience Retreat

これまでの参加人数



2016アンケート結果

《参加者所属内訳》



《他の分野の人と交流することができたか》

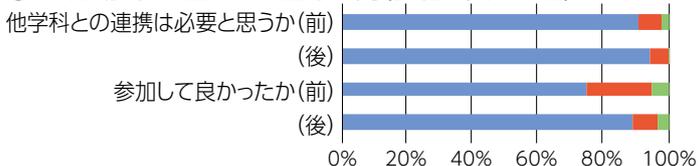


《次年度の開催についてどう思うか》

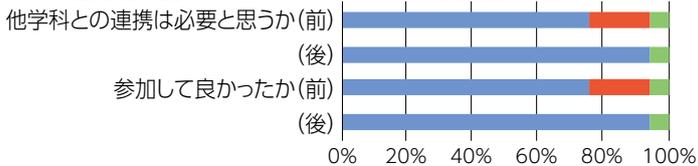


専門職連携教育 2016実施後アンケート結果

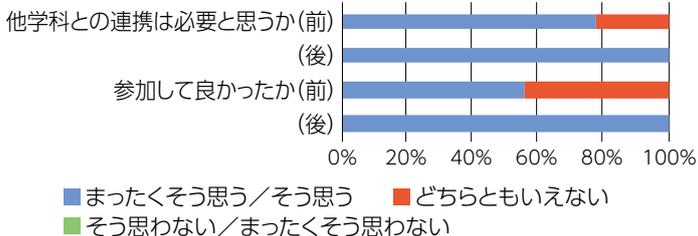
①SIH道場 第10回チーム医療入門(参加人数381名)



②第4回学部連携PBLチュートリアル(有志参加16名)



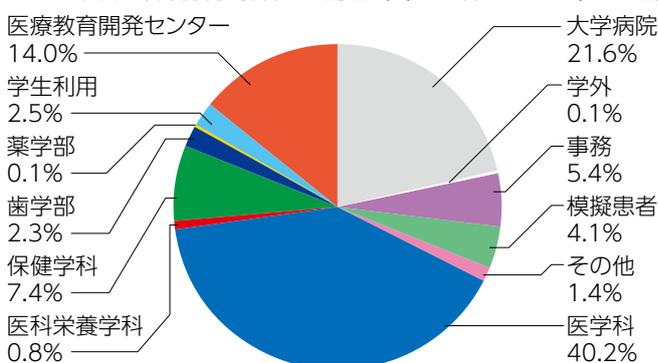
③第3回チーム医療臨床実習(9名)



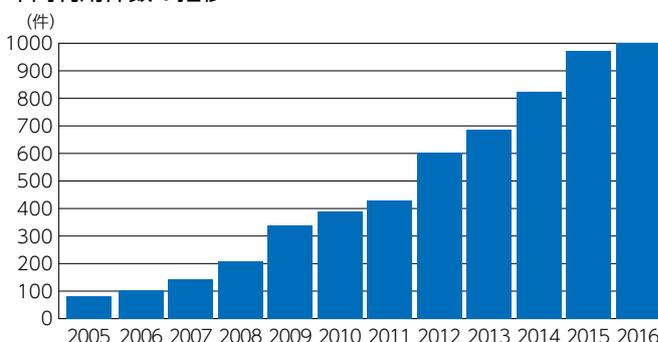
臨床 スキルズ・ラボ

《平成28年度 稼働実績》

2016年度 所属別利用件数の割合 (1,066件、のべ17,166名)



年間利用件数の推移



中心静脈カテーテル挿入(CV)個別講習会

《年度別CV個別講習会受講者数》



模擬患者参加型教育

年度別のべ活動時間(活動時間×活動人数)



学科別のべ活動時間の割合

